三原市立本郷小学校　　第１学年　国語科学習指導案

単元名：ぼくらのむかしにタイムスリップ！
「大きくなったよリーフレット」
―どうぶつの赤ちゃん―

本単元で育成する資質・能力　　思考力

指導者　　三上　恵子

１　日　　時　平成 31 年２月 12 日（火）第２校時（９：３５～１０：２０）

２　場　　所　１年１組　教室

３　学年・組　１年１組（男子 14 名，女子 15 名　計 29 名）

４　単元設定の理由

（１）単元観

本単元は，小学校学習指導要領における「Ｃ読むこと」の「（３）書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付きながら読むことができるようにするとともに楽しんで読書しようとする態度を育てる」および「Ｂ書くこと」の「（２）経験したことや想像したことについて，順序が分かるように，語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに楽しんで表現しようとする態度を育てる。」を受けて設定されている。

本教材の読み取りの視点は，生まれたときの様子と大きくなっていくときの様子の２点に大別される。生まれたときの様子は，「体の大きさ」「目や耳の様子」「親と似ているかどうか」，大きくなっていくときの様子は，「歩くときの様子」「お乳を飲む時期」「自分でえさをとる時期」という観点で比較できるようになっている。それぞれの観点ごとに比較することで「違い」が分かるように，大事な言葉や文を書き抜く学習に適している。

本教材は，「赤ちゃん」という言葉が多く使われている。「赤ちゃん」という言葉からイメージするのは，一般に人間の赤ちゃんであり，児童が教材文にふれるたびに，自分の成長と比較して文章を読みやすくなっている。そこで，生活科の学習との関連を図りることで，より自分の経験や成長を思い出し，新たな比較の視点に気付きながら，読み深めることができる教材となっている。

【指導の系統】

第１学年
じどう車くらべ

⇨

第１学年
どうぶつの赤ちゃん

⇨

第２学年
たんぽぽのちえ

（２）児童観

本学級の児童は，１年生の説明的な文章として，「くちばし」「うみのかくれんぼ」「じどう車くらべ」を学習してきた。それらの学習を通して，児童は説明的な文章には「問い」→「答え」があるという基本的な文の構成を学んだ。また，「問い」の文に提示されてある二つの視点から，答えを読み取っていくことを理解してきている。多くの児童は，「問い」の文を意識しながら「答え」となるキーワードを探したり，挿絵と結び付けて考えたりすることができる。しかし，視点が多くなると「問い」に対する正しい「答

え」を見付けられない児童もいる。また，文章が長くなると，大切なキーワードを見付けにくく，「答え」をまとめることができない児童もいる。そのため，「問い」に対する「答え」が多い場合は，短い言葉で表にまとめる力を伸ばす必要がある。また，いくつかのものを比較する経験も少なく，物事を多面的にとらえる学習も必要である。

（３）指導観

本単元の指導にあたっては，まず，「赤ちゃん」とはどういう様子かを考えさせ，児童自身も赤ちゃんのときにどのようにすごしていたか話し合わせることで興味・関心をもたせていく。そして，児童自身にも赤ちゃんの時期があり，そこから今まで大きく成長していることに気付かせていきたい。そこで，生活科の学習と連携し，自分たちが赤ちゃんだったころの様子と，今の成長した姿を比較しやすいリーフレットにまとめていこうという「課題の設定」を行い，学習への意欲をもたせる。（ＵＤ⑤見通し）また，ここでは，２年生の学習を配慮し，自分が成長したことでは，特に「１年生でできるようになったこと」を考えさせていく必要がある。初めに，ライオンとしまうまの赤ちゃんの様子を「生まれた時の様子」と「成長の様子」ごとに読み取り，①生まれたときの体の大きさ②目や耳の様子③親の姿との比較④歩くときの様子⑤乳を飲んでいる期間⑥自分でえさをとる時期の六つの視点ごとにワークシートにまとめさせ，「情報の収集」をしていく。（ＵＤ⑨視覚化）また，まとめる際には大切なキーワードを見付けさせ，短くまとめることができるように意識させる。その後，ライオンとしまうまの赤ちゃんの様子を比較させることで，動物の赤ちゃんにはそれぞれ共通点・相違点があることを明確にする。二匹の比較後，児童が各自聞き取ってきた自分自身が赤ちゃんだったころの様子を基に，人間の赤ちゃんの様子についてまとめていく。その後，二匹の動物と人間の赤ちゃんの様子を比較していくことで，それぞれの共通点・相違点を見付けさせる。そして，なぜそのような違いがあるのかを考えることで，生き物には赤ちゃんのころから，それぞれが生きていく環境に合わせて必要な力が身についていることに気付かせていく。単元末には，自分の成長の様子をリーフレット型のワークシートにまとめさせる。出来上がったリーフレットを発表し合い，児童に自身や友達の成長を実感させ，本単元のまとめとしていく。

＜本単元で育成しようとする資質・能力とのかかわり＞

本単元では，叙述を基に「問い」に対する「答え」を読み取りまとめていくことや，まとめたことを比較していくことから，思考力を高める。

５　単元の目標

〇時間や事柄の順序を考えながら，内容の大体を読み，違いを考えることができる。

６　単元の評価規準

国語への 関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
動物の赤ちゃんについて説明されている文章や図鑑等を読み，進んで調べようとしている。	・時間や事柄の順序を考えながら，内容の大体を読んでいる。 ・大事な言葉や文を見付け，書き抜いている。	・主語と述語の関係に注意して，ライオンとしまうまの様子を読み取っている。 ・敬体で書かれた説明を理解している。

7　指導と評価の計画（全 10 間）

時間	狙い・学習活動 ☆学習スパイラル（６つ）を明記	評価規準（評価方法） 国語への関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
1	・赤ちゃんについて知っていることを話し合い，学習課題を設定し，学習の見通しをもつ。 課題の設定	○赤ちゃんについて知っていることを進んで話し合うことができる。		
2	・第１段落「問い」の部分を読み学習見通しをもち，読み取りの観点の６つを見付ける。 情報の収集，整理・分析	○第１段落を進んでよむことができる。	◎「問い」を読み取り，６つの視点を見付けることができる。	
3	・第２段落を読み，ライオンの赤ちゃんの生まれたばかりの様子を読み取る。 情報の収集，整理・分析	○第２段落を進んで読むことができる。	◎ライオンの赤ちゃんの生まれたばかりの様子を読み取ることができる。	○キーワードを基に，ライオンの赤ちゃんが生まれた時の様子をまとめることができる。
4	・第３，４段落を読み，ライオンの赤ちゃんの成長の様子を読み取る。 整理・分析	○第３，４段落を進んで読むことができる。	◎ライオンの赤ちゃんの成長の様子を読み取ることができる。	○キーワードを基に，ライオンの赤ちゃんの成長の様子をまとめることができる。
5	・第５段落を読み，しまうまの赤ちゃんの生まれたばかりの様子を読み取る。 情報の収集，整理・分析	○第５段落を進んで読むことができる。	◎しまうまの赤ちゃんの生まれたときの様子を読み取ることができる。	○キーワードを基に，しまうまの赤ちゃんが生まれたときの様子をまとめることができる。
6	・第６，７段落を読み，しまうまの赤ちゃんの成長の様子を読み取ることができる。 情報の収集，整理・分析	○第６，７段落をすすんで読むことができる。	◎しまうまの赤ちゃんの成長の様子を読み取ることができる。	○キーワードを基に，しまうまの赤ちゃんの成長の様子をまとめることができる。
7	・ライオンとしまうまの赤ちゃんの様子を比べ，違いを読み取る。 まとめ・創造・表現	○ライオンとしまうまの赤ちゃんの違いをすすんで読み取ることができる。	◎ライオンとしまうまの赤ちゃんの様子を比べ，違いからそれぞれの生き方の違いを考えることができる。	
8	・自分が赤ちゃんだったときの様子から，人間の赤ちゃんの様子を表にまとめる。 実行，振り返り	○人間の赤ちゃんの様子について，進んでまとめようとしている。	◎人間の赤ちゃんの様子をインタビューから読み取ることが出来る。	○人間の赤ちゃんについて６つの視点でまとめることができる。
9	・人間の赤ちゃんとライオンやしまうまの赤ちゃんの様子を比べ，違いを読み取る。（本時）	○ライオンとしまうまと人間の赤ちゃんの違いを進んで見付けることができる。	◎ライオンとしまうまと人間の赤ちゃんの違いを見付け，動物の生き方の違いを読み取ることができる。	

10 11	・児童自身の７年間の成長をリーフレットにまとめていく。	◯これまでの自分の成長をリーフレットに進んでまとめている。		◎自分のなりたい動物の赤ちゃんの紹介カードをすすんで書くことができる。
12	・まとめたリーフレットを発表し合い，学習のまとめをする。	◎自分のリーフレットを進んで発表し合うことできる。		

８　本時の展開

（１）本時のめあて（目標）

ライオンとしまうまと人間の赤ちゃんの様子を比較し，共通点・相違点を見付けることができる。

（２）観点別評価規準

◎ライオンとしまうまと人間の赤ちゃんの様子を比較し，共通点や相違点を見付けている。

評価方法：発表，ワークシート

（３）本時で育成したい資質・能力の評価基準（達成した児童の姿）

資質･能力	評価基準（達成した児童の姿）
論理的思考力	A　ライオンとしまうまと人間の赤ちゃんの様子を比較し，共通点や相違点を見付け，それぞれの生き方の違いに気付くことができる。 B　ライオンとしまうまの赤ちゃんの様子を比較し，共通点や相違点を見付けることができる。 C　課題を解決することができない。

（４）学習の展開

	学習活動 ・児童の思考の流れ学習スパイラル	指導上の留意事項（・） （支援の具体的ＵＤ）	○評価規準　（評価方法） ☆達成した児童の姿（資質・能力）
導入	1　前時までの学習を振り返る	・既習を掲示しておくことで，ライオンとしまうまと人間の赤ちゃんの様子をそれぞれまとめたことを確認させる。（ＵＤ⑨視覚化）。	
	2　めあてを確認する	・人間と二匹の赤ちゃんの様子が何故違うのかに着目させ，本時のめあてへつなげる。	
	めあて　それぞれの赤ちゃんのようすをくらべてみよう。		

展開	3　表をもとに比べてみる。 ・表から共通点を見付け，しるしをつける。	・これまでまとめた表を使い，ライオンとしまうまと人間で共通しているところにしるしをつけてつなげさせる。 ・共通点を見付けられない児童には，６つの観点ごとに似ているところがあるか考えさせる。	
	4　見付けたことを交流する。 ・ペアで交流した後，全体で発表する。	・共通点がある反面，それぞれの生き物によって相違点もあることに気付かせていく。	
	5　なぜ，それぞれの赤ちゃんで様子が違うのか考える。	・ライオンとしまうまの関係は捕食者と獲物であることに着目させ，生きていくために必要なことが違うことに気付かせる。 ・人間は，動物とは違い捕食される心配も，獲物を狩る必要もないため，二匹の動物とは異なる点が多いことをおさえておく。	
	6　本時のまとめ		
	まとめ　　それぞれのどうぶつが生きていくためにひつような力が赤ちゃんのころからあるから，ちがいがある。		
まとめ	7　振り返りをする 振り返り	・本時の学習をチェックシートに振り返らせる。	

９　本時の板書

ぼくのむかしにタイムスリップ！

どうぶつの赤ちゃん

め

それぞれの赤ちゃんのようすをくらべてみよう。

とい	とい① 生まれたときの ようす			とい② 大きくなるときの ようす		
ようす	からだの 大きさ	目や耳	おやと くらべて	じぶんで あるけるか	おちち	えさを とるじき
ライオン	子ねこぐらい	とじたままる	あまりにていない。よわよわしい	あるけない（おかあさんにくわえてもらう）	二か月くらいはおちちだけのむ	一年ぐらいたつとじぶんでつかまえる
しまうま	やぎぐらい	目はあいている耳はぴんと立っている	しまのもようがあって、おかあさんにそっくり	生まれて三十ぷんもたたないうちに立ち上がる	おちちだけのむのは七日ぐらい	一しゅうかんぐらいすると、じぶんで草もたべる
人げん	犬のプードルやねこぐらい	目はとじたまま耳はあいている	にているところもあるよわよわしくて、あまりにていない	八か月→ハイハイ一さいぐらいである。	六か月ぐらいまでは、ちちだけをのむ	二さいぐらいから、プーンやフォークでべれるようになる

しまうま　→　にげるため

たべられちゃう

ライオン　→　にげるひつようがない

人げん　→　にげなくてよい。あんぜん

ま

それぞれのどうぶつが生きていくためにひつような力が赤ちゃんのころからあるから，ちがいがある。